



道中だより

第 364 号

平成30年11月1日発行

- ・巻頭言
- ・第60回北海道中学校長会研究大会十勝・帯広大会
- ・論文・文芸
- ・特別寄稿・さりながら
- ・前期情報・事務局日誌



題名「望 羊蹄」 真狩町立真狩中学校 小田 篤志



不易なるもの

北海道中学校長会 副会長 蓮 本 裕 一

今年度、北海道中学校長会より全日本中学校長会の理事研修会・総会へ参加する機会をいただいた。その際に文部科学省の方々からお話を伺う時間があり、最近の教育情勢等の説明がなされた。説明される方々に共通していたのが、「新学習指導要領の円滑な導入」と働き方改革に伴う「業務改善」に関する内容であった。

全国各地の理事とも懇談する中で、「学習指導要領の円滑な導入」に関しては、それぞれの地区が地区教委とも連携しながら、着実に進めている様子が見えてきた。しかし、業務改善に関しては地域差が大きく感じられた。

私の勤務する函館市においては、昨年度より市教委主導で「業務改善ワーキング」を立ち上げ、校長会も参加して改善策が練られ、市教委より指針が出された。保護者向けの教職員が取り組む業務改善の内容を記載した文書も配布され、教職員の勤務時間、部活動の今後の取組等々に関し周知が図られた。その指針を受け、中学校長会においても、部活動等に関する具体的な改善策を検討・確認し、週1日及び土・日どちらか1日を活動しない取組を昨年度末より実施している。おおもとの業務量が減らない限り、業務改善に関しては非常に困難な面も確かに

あるが、手のつけられるところから取り組み、工夫するところは工夫しながら着実に進めている段階である。

いよいよ来年の5月1日より新元号がスタートする。昭和から平成へ、そして新元号へと時代が変遷し、ガリ版と鉄筆を使った時代からワープロへ、そしてパソコンへと時は流れた。昭和の終わりも経験し、入学願書に「平成」のゴム印を押しまくった時期も今となっては懐かしい。

38年間の教員生活の終わりが見えてきた今、様々なことが蘇るが、変わらず考えていたことは「この子たちに一人で生きていける力を付けることができたのか？」ということだった様な気がする。

「新学習指導要領」でも変わらず一貫している「生き抜く力」を働き方改革で余裕が生まれ、子供と向き合う時間が増えた教職員が育ててくれることを平成最後の校長として強く願わんばかりである。自分が生徒の一生を左右する職業に就いているという怖れと自覚を強く持ち、義務教育を終え、社会の荒波に出ても、一人でしっかりと「生き抜く」子供たちに育てていくことが我々教職員の責務なのだから。



第60回研究大会あいさつ

帯広市校長会会長 辻 野 裕 義



皆様おはようございます。

本研究大会の実行委員長を務めさせていただいております、帯広市校長会会長の辻野でございます。平成30年9月6日の北海道胆振東部地震により、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々、震災対応にご苦労されている各校校長の皆様に心よりお見舞い申し上げます。地震発生から2週間が経過しましたが、完全復旧にはまだまだ時間がかかると思います。

そのような中、本研究大会に、このように多くの会員の皆様のご参加をいただき、誠にありがとうございます。震災の影響により、大会の持ち方については3日前まではっきりせず、十分に準備ができたとは言えない状況ですが、北海道中学校長会会員全員が「チーム道中」としてタッグを組み、困難に立ち向かっていくための第一歩となる大会にしていけたらと考えております。梶本会長の挨拶にもありましたように、未来につながる大会となるよう、実行委員全員の総力で大会運営にあたりたいと決意しております。参加者の皆様の御支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

また、このような中、北海道教育庁十勝教育局長 大橋則之様、十勝管内教育委員会連絡協議会会長 笹原博様、帯広市教育委員会教育長 嶋崎隆則様、全日本中学校長会会長 山本聖志様をはじめ、多くのご来賓の皆様の御臨席を賜りました。衷心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、本大会は、第59回の石狩・千歳大会の成果を受け継ぎながら、「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」を基本主題としての、4カ年継続研究の3年次にあたる大会です。私たち校長には、昨年度の石狩・千歳

大会で明らかになったように、明確なビジョンを示し、子供たち一人一人が、自他を尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越えて豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、確かな学校経営を進めることが強く求められています。特に、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていく」という教育課程の理念を会員各校に還元できる大会運営が求められています。

2021年から、中学校においても全面実施される学習指導要領の趣旨を十分に生かし、確実に移行期間における取組を進めなければなりません。本大会では、北海道中学校長会会員の皆様の英知を結集して、質の高い学校経営の実現に向けて成果をあげることができるよう、大会準備を進めてまいりました。会員の皆様のご支援により、全体会における確かな情報の確保、5つの分科会における各主題や視点に沿った活発な研究の深化から、明確なビジョンの形成や様々な教育課題の解決に結びつくものと確信しております。

これまで、十勝・帯広大会に向けて実行委員75名が一体となり、「質の高い学校経営を実現できる研究大会」を目指し、併せて『十勝の誠意とおもてなし』を合言葉に「フードバレーとかち」や十勝の自然環境をご堪能いただけるよう心を込めて準備にあたりてまいりました。しかし、運営上の不備や行き届かない面が多々あることと存じます。その点については、皆様の御理解と熱意で支えていただけると幸いです。

結びになりますが、本研究大会の開催にあたり、多大なる御指導と御支援を賜りました北海道教育委員会、帯広市、十勝管内教育委員会連絡協議会、その他関係機関の皆様にご心から感謝申し上げます。あたっての挨拶とさせていただきます。

2日間、どうぞよろしくお願いいたします。

提言の概要

第1分科会

司会を終えて

創意工夫を生かした 特色ある教育課程の編成・実施

白糠町立白糠中学校 水 野 秀 哲

1 はじめに

釧路校長会では、創意工夫を生かした特色ある教育課程の編成・実施に向けてリーダーシップを発揮する校長の果たすべき役割と指導性を視点に、校長会として組織的な研究を進めている。



2 研究内容

視点1の「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と指導方法の工夫」に関しては、特色ある取組事例として、「校内体制の整備」、「小中連携・一貫から学びをつなげる取組」を紹介した。

視点2の「地域の特色や伝統文化を活用した教育課程の充実」に関しては、特色ある取組事例として、「地域連携コーディネーターの活用」、「水産学習を通じた地域との連携」、「総合的な学習の時間等との横断的な取組」を紹介した。

3 研究の成果と課題

○基礎・基本の確実な定着を図るためには、取組を実効性のあるものとする校長としての組織マネジメント、協働体制の確立の重要性を再認識でき、具体的事例を示すことができた。

○地域の特色や伝統文化を活用した教育課程の充実を図るためには、経営ビジョンと合致するよう教育効果の検討を十分した上で整理し、教育課程に位置づけていく必要があることを再認識でき、具体的事例を示すことができた。

●学校が「メンバー及びチームとしての能力を伸ばし続ける組織」となるよう校長はリーダーシップを発揮していかなければならない。

〈研究の視点〉

学校や地域の特色を生かした教育課程の編成・実施

①基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と指導方法の工夫

②地域の特色や伝統文化（ふるさと教育）を活用した教育課程の充実

標茶町立虹別中学校 近 藤 伸 哉
釧路町立遠矢中学校 新 谷 修

第1分科会では、釧路校長会の取組を基調提言として「研究の視点①と②」を討議の柱に据え、6グループでグループ協議を行った。

各グループの協議は、各地区・学校の実情に応じた具体的な実践交流が行われ、自校の課題解決につながる取組が話し合われ、質問、発表も参加者の協力でスムーズに行われた。

柱1については、見通しと振り返りに重点をおいた研修体制、放課後学習や学習サポートの具体的実践例、小中連携係の位置付け、等について交流することができた。

柱2については、生徒にとって学びと地域を愛する心を育てる場となる活動について交流することができた。

助言者の十勝教育局教育支援課長西川忠克氏からは、（柱1）基礎・基本の定着にかかわっては習得させる知識・技能の質を確保できる教育課程を編成することが重要であり、そのために①取組の先に明確な「目指す子供の成長の姿」を全教職員で共有すること、②習得した知識・技能を、他の学習や活動で生きて働かせることを踏まえた「カリキュラム・マネジメント」を行い、「主体的・対話的で深い学び」につなげていく必要がある。

（柱2）ふるさと教育にかかわっては、今の日本における学校の役割を考え、①地域社会の将来を担おうとする意識、②社会全体を元気に、幸せにしようとする意識等を子供に培ってほしいとの助言があった。そして、これらを実現するため、校長のリーダーシップに大いに期待するとの激励の言葉をいただき、分科会を終了した。



提言の概要

第2分科会

司会を終えて

確かな学力の定着を図る指導と評価

小樽市立潮見台中学校 山 崎 徹 也

1 はじめに

基礎的な知識・技能を修得するとともに、実社会や実生活の中でそれらを活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探求し、学びの成果等を表現し、さらに、実践に生かす観点から「社会に開かれた教育課程」の実現が求められている。小樽市中学校長会では、市内全中学生の現状を分析するとともに、子供たちに予測不可能な社会を生き抜く力を育む教育活動に取り組んでいる。



2 研究内容

全国学力・学習状況調査結果の経年比較から2つの課題を設定した。

- 課題1 「学びの質を変えるための意欲・動機づけ」
課題2 「望ましい学習習慣・生活習慣」

課題1に対しては、地域との連携・キャリア教育の推進を視点に、課題2に対しては、生活リズムの形成や家庭学習の習慣化、情報モラル教育の充実を視点に小樽市内各中学校で改善に向けて実践した。

3 研究の成果と課題

- 保護者や地域の参画意識を高める校長の意図的な取組は、保護者・地域住民はもとより、教職員の意識改革につながった。
- 教職員の意識改革により、学校の組織体制の整備が進み、子供へのより効果的な指導が行われるようになった。
- 学習指導と学校評価の観点については、数値等による検証データの蓄積や分析が必要である。
- 保護者や生徒による授業評価、教科経営の評価についても、社会に開かれたカリキュラムの視点からも今後これを前進させなければならない。
- 継続的な地域連携、異校種連携の推進に向け、校長会として組織的に取り組む必要がある。

〈研究の視点〉

保護者、地域と連携した開かれた学校経営

①学校・家庭・地域が一体となった学力向上

②主体的に学習に取り組む態度を養う学習指導と学校評価

小樽市立向陽中学校 浦 寄 昌 明
小樽市立朝里中学校 森 万 喜 子

第2分科会では、小樽市中学校長会の提言を基に、研究の視点①と②を協議の柱に据えて7グループで協議を行った。

各グループ協議は、各地区・学校の実情に応じた具体的な実践交流が行われ、すぐにでも自校の実践に役立つ取組が話し合われた。また、提言に対する質問が多く出され、興味深い提言内容であったことが窺われた。

研究の視点①については、小中連携やコミュニティ・スクールの導入・運用に向けた工夫や放課後学習等への地域人材の活用、子供食堂等の地域・福祉行政との連携について交流することができた。

研究の視点②については、学習支援員や有償ボランティアの活用、学校図書館司書との連携など主体的に学習に取り組ませるための仕組みづくりや人事評価シートを活用した取組の推進等について交流することができた。

助言者（釧路教育局教育支援課長藤森美由紀氏）からは、小樽市の取組には、チームでそろえている良さがある。教育の諸課題に対応するためにチーム学校の考え方が浸透している。校長・教頭は異動した先でもある程度の枠をそろえてスタートを切れるのは学校力向上の面でも意義がある。

また、キャリア教育や小中一貫教育、人材活用に積極的に取り組んでいる。この提言にはコミュニティ・スクールに一直線に結びつく取組がたくさんあった。学校として育成する力をどのように設定するかを明確にすることが必要である。地域・保護者に分かりやすい学校経営のグランドデザインをつくることを大切にし、学校経営にあたっていただきたい。そして、これらを実現するため、校長のリーダーシップを大いに期待するとの激励の言葉を頂き分科会を終了した。



提言の概要

第3分科会

司会を終えて

豊かな心と健やかな 身体を育む教育の充実

日高町立日高中学校 金光 宏 明

1 はじめに

日高地区校長会では、自己肯定感や自己有用感を育てる生徒指導の充実を図る、また、豊かな心を育む道德教育の充実を図るための、最も重要な課題を「それぞれの地域が目指す子供像を地域が共有すること」と捉え、研究を進めている。



2 研究内容

地域を巻き込んだ教育を推進するにあたり、学校が組織的に機能するためのマネジメント、関係諸機関への関与性を高め影響力を発揮するリーダーシップを主眼に置き、2つの視点から取り組んだ実践事例を紹介した。

(視点1) 自己肯定感や自己有用感を育てる生徒指導の充実

- ①生徒の自己理解と自己有用感の獲得を図るための地域住民と学校の交流機会の充実
- ②系統的なキャリア教育の中で計画的に行われる道德教育の推進と改善・充実
- ③小中一貫教育が目指す9年間の系統性を意図した教育課程編成における工夫と改善・充実

(視点2) 豊かな心と命を大切にせる教育の充実

- ①豊かな心を育む道德授業の質的向上を促す研修機会の充実～管内及び道の道德教育研究会と連動した小中連携の取組

3 研究の成果と課題

- 様似町や平取町における校種を超え一貫したカリキュラムの編成・推進の進展及び、他町への波及。
- 小規模校を含めた組織的・計画的な学校運営等管内教育における校長会の影響力の効果的な波及。
- 中学校区の連携促進に向けた、交流活動・研修活動の活性化。
- 地域で育む子供像を明確にし共有するための学校運営協議会の機能化・円滑化。

〈研究の視点〉

豊かな心と健やかな身体を育む小中連携の充実
①自己肯定感や自己有用感を育てる生徒指導の充実

②豊かな心と命を大切にせる教育の充実

日高町立門別中学校 久保田 慎 吾
平取町立平取中学校 東 峰 秀 樹

第3分科会では、基調提言である日高地区校長会の取組に基づき、「研究の視点①と②」を討議の柱に据え、グループ協議を行った。

深まりをもたせるため8グループを柱ⅠとⅡに二分し協議を行い、学校課題の解決と学校経営に生かすべく、各地域や学校の実情に応じた創意工夫ある実践交流・意見交換が熱心になされた。

柱1については、学校に自らの居場所と自己有用感を生む学力向上(授業改善)の視点、生徒に誇りと憧れをもたせる異校種連携・縦割り活動の視点、自己指導能力の育成と成長を促す組織的生徒指導体制の視点等から交流することができた。

柱2については、道德教育の教科化を見据え、各種計画の整備の視点、道德授業の質的改善の視点、体験活動・教科横断的指導の視点等から交流することができた。

助言者の北海道教育庁オホーツク教育局義務教育指導監及川勝也氏より、(柱1)生徒指導の充実に係っては、組織の機能化と充実・活性化を図るために、①課題の真因を捉え改善点を明確にし策を講じること、②MBWAによる指導がなされること、③鍋蓋構造ではない、「教える」「拾いあげる」の調和が取れた組織の構築、④教職員の意識を変え、能力を高める“居心地のよい”職場づくり。

(柱2)豊かな心と命を大切にせる教育の推進に係っては、道德教育の充実を図るために、①先行実施している小学校の取組やこれまでの実践の積み上げ、文科省の動画資料をもとに授業のイメージをもたせること、②子供たちが道徳的価値を深められるよう授業の質を高め改善を図ること、③教師個々が教科と他領域で専門性を身に付ける「二足のわらじ作戦」を推奨することなどのご助言をいただいた。学校を取り巻く教育諸課題の解決と学校力の向上に向け、温かいエールをいただき、盛会裏に本分科会を終了した。



提言の概要

第4分科会

司会を終えて

自らの生き方と 社会性を育む教育の充実

旭川市立光陽中学校 片 原 俊 光

1 はじめに

旭川市中学校長会は、校長の研修意欲の高揚と資質・能力の向上を図る取組を組織的に積み重ねてきた。28年度より本分科会の研究主題に関わるワークショップ・グループディスカッションを行い、特に道徳科の移行に対して研究の視点①を活かしていく方向性が見いだされた。また、校内研修の進捗情報の交流、「校内研修モデル」の必要性等が指摘された。



2 研究概要

道徳科の移行を通して、校内研修に対する校長の関わり方を探求するのが本研究の目的である。各校の状況を明らかにし、校内研修の各段階に応じて必要とされる指導・助言の在り方を提示した。

(1) 校内研修の進捗状況の把握

- ・校内研修の進捗状況の傾向と分析について
- ・校内研修を困難にする内的・外的要因
- ・効果的な校長の働き掛けの実際

(2) 校内研修モデルの構築

- ・校内研修モデルの作成～提示しやすいサイズと内容
- ・校内研修モデルの実際

3 研究の成果と課題

- 校内研修モデルを活用することで、一定程度足並みをそろえることができ、校内研修の加速感を高めることができた。
- 校長会の情報交換に基づく資料なので、他校での研修プロセスを実例として示すことができる。
- 長大な文書の読込ではなく、図表やポンチ絵によるミニ研修の積み重ねが効果的・現実的である。
- 道徳科について「旭川市教育課程編成の指針」と連動し、小中連携・一貫、家庭・地域との連携等にも踏み込んだ校内研修をどのように進めていくか。
- 今回の成果を各校のカリキュラム・マネジメントにどのように反映させるか。

〈研究の視点〉

学校における組織運営や指導の充実を図る研修の充実

- ①校長のマネジメント能力やリーダーシップを発揮する研修会等の充実
- ②多様な専門性を持つ教職員と学校教育力・組織力の向上

旭川市立旭川中学校 新 出 秀 之

旭川市立東鷹栖中学校 木 本 貴 仁

第4分科会では、提言に関わる意見交流と、研究の視点に関する協議を7つのグループで行った。

はじめに各地域・各校の震災対応についてなどの交流の後、提言についての質問・交流を行った。研修モデルの使い方や時間設定においての校長の工夫した取組について意見交換が行われた。また助言者からは「1校の実践をモデルプランとし校長会を通した広がり」と「実情に合わせたアレンジのしやすさ」を視点に、提言に対して高い評価をいただいた。

後半は、2つの柱について各グループで自由に時間を工夫しながら協議を進めた。柱①では当事者意識を育て、様々な年代や力量をもつ職員の意識改革や方向をそろえるトップダウンとボトムアップなどの手法の工夫について実践や意見が交流された。また柱②では校長が一人一人をしっかりと捉え、小グループでの取組などを工夫することによってスキルアップを図る手だてについてなど意見が出された。

まとめとして田中幹也氏(道研企画研修部研究主幹)から、ご助言をいただいた。「道徳」における評価の留意点や全職員で担当するなど複数で関わる中学校の良さを活かした指導と評価について。また、中学校ならではの「教科の枠・壁」にとらわれず、全職員で指導技術向上に取り組める機会であること。校長としてこれを活かしてほしい。校内研修の充実に関わっては「子供たちの学習・成長の様子」からの見方で授業改善に取り組むことも大切な視点であること。そして、様々な工夫がなされた各地各校の取組など校長の知識・経験を、実情に合わせてアレンジしながら、校長の効果的な仕掛けが学校をよい方向に変えていくと、激励をいただいた。

グループ司会者の進行と記録者の丁寧なまとめ、また参加者の積極的な協議によって、大変有意義な分科会となった。



提言の概要

第5分科会

司会を終えて

時代の要請に応える 学校経営の充実

釧路市立音別中学校 藤 森 健 浩

1 はじめに

釧路市校長会では、教育改革の様々な施策が講じられている今、その根幹である学校経営の中核をなすものは、確かな学力を子供たちにつけさせること、家庭・地域との連携のもとに子供たちが自主性・自律性を確立し活力に満ちた学校づくりを進めるためには、校長がどのようにリーダーシップを発揮していくと良いのか研究を行うこととした。



2 研究の内容

「時代に対応し、信頼と連携を基盤とした創意と活力に満ちた開かれた学校経営の実現」を研究主題として、研究推進にあたり、会員へ「社会に開かれた教育課程を進める校長のリーダーシップについて」のアンケートを実施した。

それらの結果から、①連携に対する理解・意欲に関する課題 ②人材の確保等に関する課題 ③運営に関する課題が明確となった。これらの課題の解決にむけてリーダーシップをいかに発揮していくかを出し合い検討してきた。

3 研究のまとめ

各学校で、家庭・地域等との連携が進んできている。学校を中心として家庭・地域は、以前から担っていた社会的役割から離れ、それぞれが新しい役割をもち、子供たちの成長を共通のテーマとして連携を深めている。明確になった3つの課題は、カリキュラム・マネジメントの見直しの課題でもある。社会の変化に対応する子供たちを育成するために、ますます連携への取組を進め、開かれた教育課程の実現のため、これからも校長としてリーダーシップを発揮していくことが必要である。

〈研究の視点〉

学校の教育活動と関係機関等と連携した学校経営
①地域や関係機関等との連携による学校経営の充実

②教職員の意識改革と研修会を通した指導力の向上

釧路市立阿寒中学校 赤 神 正 倫
釧路市立阿寒湖中学校 嶋 健

第5分科会は、研究主題「時代の要望に応える学校経営の充実」を受け、釧路市中学校長会の取組の基調提言に沿って、「研究の視点①と②」を討議の柱として、7グループでグループ協議を行い、各地区・学校の活発な実践交流が行われ、発表も参加者の協力でスムーズに行われた。

柱1については、小中で連携した具体的な実践例をはじめ、コミュニティ・スクールや義務教育学校での取組、校区の異なる小一小連携においても中学校がイニシアチブをとる必要があることの話題が話された。また、今回の震災では、避難所開設にあたり、市役所から職員が来ていない中、地域の方が率先して運営に当たってくれた事例も紹介された。

柱2については、9年間で目指す子供像の設定を小中で連携すること、研修の持ち方の工夫、経営方針を一言で言える様な工夫、職員室通信を活用し、職員の意識改革を行う、ミドルリーダーには期首面接等を活用し、人材育成も行っていることなどが発表された。

助言者の十勝教育局義務教育指導鑑上田禎子氏からは、共通の課題や目指す子供像を共有すること、そして、小中連携では義務教育の出口である中学校が中心となり進め、外国語活動や英語の授業についても、今が7年間の学びのカリキュラムを考えるチャンスであることや、算数・数学については、単元の系統性がはっきりしていて、一貫したカリキュラムが作りやすいこと、さらに、学校の取組にコミュニティ・スクールと絡めて地域を巻き込み、各種検定に取り組むことで学力の向上につながるなど、ご助言と校長としてのリーダーシップを大いに期待するとの激励の言葉をいただき、分科会を終了した。



〈論 文〉

開放的な読書環境の創造と 豊かな読書活動の推進を目指して

訓子府町立訓子府中学校 上 野 弘 一

1 はじめに

訓子府町は人口約5,400人、農業を基幹産業とし、町内には小学校2校（児童数244名）、中学校1校（生徒数121名）がある。地域の教育への関心は高く、町の財政支援はもとより、豊かな自然環境と人情味ある人的環境、整備された教育施設に恵まれ、児童生徒は明るく素直で、伸びやかに育まれている。

本校は「叡智・友愛・不撓」を校訓に掲げており、文武両道を目指した教育活動を展開している。確かな学力の定着と向上は、なお課題であり授業改善に不断努力中であるが、あわせて、学力向上の下支えともなる生徒たちの学習意欲の維持・向上のため、生徒主体の学校行事や部活動でも指導の工夫改善に努め、確かな学びと豊かな心、たくましい体づくりに取り組んでいる。

ここでは、本校の「読書環境」と「読書活動」の取組について、その一端を紹介させていただく。

2 取組の背景と経緯

○本校の校舎は、平成5年竣工の3代目校舎で、広い敷地に近代的でおしゃれな外観と教室のほか生徒の活動スペースが設けられた多機能な内部構造になっている。のちに、PC導入によるコンピュータ室設置に伴い、図書室として使用されていた1室の改造を余儀なくされ、図書室の代替場所が必要になった。

○当時の図書室における図書貸出や利用状況は、蔵書や委員会活動に比して不調であり、幅広い学びへの読書の有用性を鑑み、図書室運営の工夫改善に迫られていた。そこで、新たな図書室機能を持つスペースづくりと読書活動推進の取組をスタートさせることになった。

3 本校の実践

(1) 開放的な図書スペースづくり

本校では、「図書室」という1室を設けず、図書スペースを設けることとし、開放的で利用しやすい環境を目指した設営に取り組んだ。これによって、生徒が蔵書を目にし、手に取る機会が格段に増え、読書機会が増えるとともに、生徒間のコミュニケーションスペースともなった。

(2) 読書意欲を高める環境づくり

図書スペースは、分掌係と国語科が中心となり、生徒会学習図書委員会の活動も加えて行っている。

蔵書の選定には、教職員からの生徒に「読ませたい本」と生徒たちからの「読みたい本」のリクエストに応じて、新著などもタイムリーな蔵書と紹介が行われることにより、生徒たちの読書活動は活発になっている。

生徒の読書機会、読書量の増加をねらっていることもあり、蔵書はややソフト路線と言える。

(3) 町図書館との連携、進路指導室の活用

図書スペースの容量や蔵書傾向を補うため、町図書館との連携を図っている。本町の図書館はかつて図書貸出が9年連続全国一という業績を収め、幼児から高齢者まで幅広い町民ニーズに応える図書館運営で、本校生徒の利用も多い。この町図書館との連携により、団体貸出を受け、各学級文庫を設置している。

また、校内の進路指導室には、教職員の蔵書が置かれ、生徒たちが手にしており、読書機会と読書ジャンルの多様化に大きく貢献している。

4 成果と課題～むすびに

○開放的な図書スペースが、生徒の読書機会を増やすとともに、生徒間コミュニケーションを促進し、豊かな学校生活を促進することができた。今後も学校課題解決の礎となる読書活動の推進につなげていきたい。

●蔵書ジャンルのソフト性が強いとの指摘もあり、好変容した生徒実態に即し、蔵書整備方針の発展的検討が必要になっている。



文 芸

A I とロボットに取って代わられる世界

小樽市立向陽中学校長 浦 寄 昌 明

2016年に将棋でA I（人工知能）が人間を負かしたというニュースがあった。プログラミングされた情報から最善の一手を選ぶのではなく、事前に試行錯誤を繰り返して学習した経験（「深層学習」＝ディープラーニング）を使って勝ったのだ。A Iは、人間の思考能力を超えたと言われた。

今年に入ってから、A Iを使った車の自動運転や株の売買が行われるというニュースを目にする。人間に代わってA Iがその職場を奪って行くだろうという絵空事が現実のものとなった。

鈴木貴博著「仕事消滅」（講談社＋α新書）には、A Iやロボット技術が発達し、人間の仕事や生活がどうなるかを予測し、どう生き抜いていけばよいかなどが書かれている。

2035年までの間に現在の約半分の仕事がA Iやロボットに取って代わられるといわれている。頭脳労働や管理職員は生き残り、肉体労働がA I・ロボットに取って代わられるだろうと考えがちだが、さにあらず。裁判の判例や人事評価では、膨大な情報を一瞬で処理して、深層学習を生かして人間よりも早く的確に判断できるのはA Iの独壇場である。

一方、スーパーやコンビニの店員、ホテルの客室係などは、複雑で多様な業務（商品の陳列や接客、ベッドメイキングやきめ細かな清掃等）をロボットで行うのは、2035年よりも先だろうといわれている。人間がロボットに最後まで勝てる能力は「手と指」の機能なのだそう。

また、芸術・芸能の世界も膨大な過去の作品を基にA Iがつくる方が優れた作品になるらしい。今、ツイッターでツイートの練習をしているA Iが学習を続けていくと、世の中のどんな音楽・アートが人間に受け入れられるのかを判断し、作品を作ることができる。そうすると、人間のアーティストは失業してしまうのか？

いや、パフォーマーとしての仕事は残るだろう。その人間の生きざまや歌や演技のパフォーマンスがそれを受け取る人間の共感を呼ぶ。やはり、決定的に人間とA Iの違いは、豊かな感情や情熱を「感じる」ことができる感性なのではないだろうか。

A I化が進むこれからの学校教育にあつては、学力・体力はさることながら、この人間らしい「感性」を磨くことがより一層求められることになるだろう。

文 芸

故郷に誇りをもって

函館市立赤川中学校 加 賀 重 仁

本校の南側の教室からは函館のシンボルである函館山が見えます。生徒が故郷に誇りを持ち、地域の大切な一員として、地域づくりに貢献したり、地域を大切にしたりする心を培うことは、殊のほか大切であると思っています。

しかし、私自身が自分の故郷について未だに新しい発見があることに恥ずかしさを感じながらも、少しでも本校の教育に活かしたいと考えています。

函館は異国情緒あふれる賑やかな街として知られていますが、その背景には、函館がいち早く海外に門戸を開いた街の一つであり、それが函館人の気質に大きく影響していることがあるようです。

当時の史実に基づいて描かれた「とっ珍さんはおおいそがし」という絵本があります。もちろん中学生でも大いに楽しめる絵本です。主人公は函館山の麓にある実行寺の小坊主・とっ珍さん。とっ珍さんは、当時お寺にやってきたロシア人領事一行のお世話に大忙しでしたが、この時にハリストス正教会の仮聖堂が実行寺境内に建てられました。とっ珍さんはそこで歌われたロシアの歌（ハリストス正教会の聖歌）にすっかり魅せられてしまいます。僧侶の読経と聖歌が同じ敷地から聞こえてき

たというわけです。ロシア領事一行が実行寺から現ハリストス正教会へ領事館を移してしまっても、和尚さんには内緒でとっ珍さんはずっと聖歌を聴きにいったという内容です。ちなみにハリストスの最初の信徒であり、後に同志社大学を創設した新島襄が函館から米国へ密航した際に命がけで手助けした沢辺琢磨は坂本龍馬の親戚（また従弟）です。

当時の函館では様々な国の領事を受け入れ、「宗教の異なる外国人を住まわせるだけでなく、境内に仮聖堂を建てる許可まで与えるという寛容な心で接した」わけです。今となっては信じがたい事実です。そこで歌われたハリストス正教会の聖歌が、日本で初めての混声合唱とも言われています。この街を発展させた先人は、異国の異なる宗教をも、大らかな心で受け入れ、新しいものをどんどん吸収しました。

こうした史実は、私たちに取り留めない力を与えてくれます。学校が歴史を紡ぐ大切な役割を果たそうと努力することは、今教育に求められている重要な課題を解決する取組に通じるものと考えています。

(特別寄稿)

教頭職に夢と誇りを

知内町教育委員会

教育長 本 間 茂 裕

未来を生きる子供たちに必要な資質・能力、豊かな感性や創造性を育てる学校教育の創出が言われており、それを担う校長には大きな期待が寄せられています。そして、校長は今も昔も子供たち・教職員や保護者・地域にとって大きな存在です。

自分自身の教職生活を振り返れば、教頭昇任当初、勤務校の校長から日々きめ細やかな指導・啓発を頂いたことが忘れられません。校長との間の毅然とした空気の中「考える」ことを通じて学校経営の基本的なスタンスを学び、2年目には何とか課題と校内分掌機能を結び付けての組織的な学校運営がゆっくりと回り出しました。新米の教頭に「考える」時間を保証し、ひたすら待ち続けてくれた校長にはただ感謝しかありません。

さて、昨今の教頭昇任試験の受験者数の減少を危惧する声が聞かれます。絡み合った複合的な要因が背景にあり、北海道の教育が潮目にあることを感じざるをえません。

振り返れば、学校五日制の完全実施と連動した平成11年3月告示の学習指導要領改訂の基本方針「創意工夫を生かした特色ある教育、特色ある学校づくりの推進」を契機に学校経営は学校全体で推進する組織的なマネジメントサイクルをよりどころとする方向に大きくシフトチェンジしたように思います。それだけに、自校の教育目標と現状のギャップから具体的な学校課題を洗い出し、改善・解決に向けて組織的な取組を推進する円滑な教育課程経営が求められるようになりました。

そして、校内において、この一連の流れを見守り、途切れそうな箇所を補強し、澁みを回避する手だてを講じていくことに教頭のリーダーシップが期待されて今日に至っています。

教育課程は学校の教育そのものであり、教育課程経営は学校経営の根幹を為すものです。

学びはその人の「夢」を育みます。

その学校での学びを「誇り」に人生を生き抜こうとしている人もいます。学ぶ人の「夢」と「誇り」を志高く支えることこそが学校経営の要である教頭職の使命ではないでしょうか。あらためて、現職は言うに及ばず、未来の教頭先生たちが夢と誇りを抱くことのできる教育行政に努めていきたいと思う昨今です。

学校を核とした地域づくり

別海町教育委員会

教育長 伊 藤 多加志

かつて学校は地域の中心であって、運動会や学芸会等の行事では、幼い子供たちからお年寄りまで、地域の方々が集まってくれました。校長室には、地域の方々が、よく訪ねてきて話をしていました。しかし、現在は、このような学校は少なくなってきました。だんだんと忘れられてしまった光景かもしれません。

別海町には、昭和40年度、小学校38校、中学校22校の学校がありました。その後、統合により、現在は、小学校8校、中学校8校となりました。長い歴史と伝統をもつ地域とともに歩んできた学校の統合は、地域に様々な影響を与えます。効率性だけの安易な統合は避けなければなりません。しかし、現状を単に受け入れるのではなく、新たな学校の創出をめざして、取り組むことも必要だと考えています。

今、本町では、町内に8区ある中学校区で「別海型コミュニティ・スクール」の導入を進めているところです。それぞれの地区では、早くから地域と学校の協働事業が行われています。地域が学校と深く関わり、「地域の子供は地域が育てる」と、長年実践してきた地域です。今回の導入は、従来どちらかという個々に行われてきた学校支援や子供の育ち支援を、「コミュニティ・スクール」という組織の中で位置づけて行おうとするものです。学校教育の一つの制度として示すことで、より充実した活動が展開されると考えています。

「自分たちが『当事者』として、自分たちの力で学校や地域を創り上げていきたい」「子供たちのために学校をよくしたい」「元気な地域を創りたい」・・・そんな『志』が集まる学校や地域が創られることを願っています。

地域の未来を担う子供たちの成長は、それぞれの地域に住む人々にとっての夢であり、希望でもあります。地域社会を構成する一人一人が当事者としての役割と責任を自覚し、主体的・自主的に子供たちの学びに関わり、支えていく中で、大人たちも共に学び合い、成長を遂げていくことができます。

私たちは、「別海型コミュニティ・スクール」を通して、『学校を核とした地域づくり』を目指し、地域の中心となる新たな学校を創り出していきたいと考えているところです。



私が初任者で赴任した弟子屈町立弟子屈小学校在職中、当時釧路教育局に勤務されていた先生から一冊の本を紹介していただいた。その本は、長野県教育委員会、小中学校長、村教育委員長としてご活躍された毛涯章平氏著書「肩車にのって」である。

教師となり、失敗ばかりの毎日が続き、どのように子供たちと接していけばよいのかを日々模索していた時に出会ったこの本が、今も教師としての指針となり、私の教育信条となっている。

それは、「肩車にのって」に書かれていた「教師十戒」である。①子どもをばかにするな。教師は無意識のうちに子どもを目下の者と見てしまう。子どもは、一個の人格として対等である。②規則や権限で、子どもを四方から塞いでしまうな。必ず一方を開けてやれ。さもないと、子どもの心が窒息し、枯渇する。③近くにきて、自分を取り巻く子たちの、その輪の外にいる子に目を向けてやれ。④ほめることばも、しかることばも、真の「愛語」（相手を思いやる言葉）であれ。必ず子どもの心にしみる。⑤暇をつくって、子どもと遊んでやれ。そこに本当の子どもが見えてくる。⑥成果を急ぐな。裏切られても、なお、信じ待て。教育は

初心に戻る「教師十戒」

札幌市立あいの里東中学校 和田 正 教

根くらべである。⑦教師の力以上には、子どもは伸びない。精進をおこたるな。⑧教師は「清明」（自然で明るく、ゆったりする）の心を失うな。ときには、ほっとする笑いと、安堵の気持ちを起こさせる心やりをわすれるな。不機嫌、無愛想は、子どもの心を暗くする。⑨子どもに、素直にあやまれる教師であれ。過ちは、こちらにもある。⑩外傷は赤チンで治る。教師が与えた心の傷は、どうやって治すつもりか。

この10の言葉を、いつも心にとどめ教師人生を歩んできたように思う。今は、校長として、若い先生や生徒指導等で悩んでいる先生方に話をする際に活用し、教育の本質、教師は魅力的な職業であることを伝えている。「教育は人なり」というように、学校教育の成否は教師の力量によるところが大きい。私は釧路、札幌の先輩や同僚から、その時々には様々な指導や助言を受け、教師として成長するために大切なことを学ばせてもらった。今も、札幌の校長先生はもとより、北海道中学校長会研究大会等において全道各地区の校長先生方から学校経営の示唆をいただく機会を得ていることに感謝している。



年老いた両親の住む実家に帰ると、私の帰りを待っていたかのようにリクエストが続く。「台所の蛍光灯が点かなくなった」、「風呂の混合栓が水漏れする」、「網戸に穴が空いて虫が入ってくる」…。呼応するかのように、交通事故の後遺症で身体が不自由な妹も、「兄貴、高いところの物を片付けないと、地震が来たら危ない」、「こないだから、テレビの映りが悪くなった」…。（俺は、仕事をしてるんだから、休みくらいはゆっくりしたいんだって!）という心の声を飲み込みながら、「はい、はい…」とリクエストに応える。人に仕事を頼みながら、進行具合をじっと見ていた母親がぼつりと「あんた、器用だねえ。どこで、こんなこと覚えたんだい?」と不思議そうな顔をする。

18年間育ててもらった実家を出て、もう40年近くが経とうとしているのだ。それくらいの成長は当たり前だろうにと思いつつ、これまでの自分を振り返ってみて、蛍光灯の交換も、水道栓の取り替えも、網戸の張り替えも、テレビアンテナ線の修理も、みんな教員生活を送る中で覚えたことだなあとしみじみと思った。何より、教員生活のほとんどを過ごしたへき地で身に付けたことばかりだ。中

自分の残してきた足跡を・・・

弟子屈町立弟子屈中学校 佐藤 敬 喜

でも、教頭時代に身に付けた“3K”と言われるようなディープな仕事は、今でも役に立つことばかりである。やる気を出すかどうかで結果は大きく変わるのだが、電気・水道・灯油などの光熱関係とか、簡単な大工仕事など、妻の依頼に従い夕食後の缶ビールと引き替えに作業に取り掛かる。作業後の家族が向ける「尊敬の眼差し」に心地よさを感じながら。

自分が教員となって、先輩や上司からたくさんのことを教わってきた。授業に関して、指導案の書き方や発問・板書など、部活動や少年団の指導、職員室内の人間関係などなど…。どれも、教師としてというよりも人間としての基本であり、今の自分自身の土台となる大切なものである。教員生活の第4コーナーを過ぎた自分にとって、後に続く人たちに、何を、どう伝えていけばいいのだろうか…。自問自答するうちに、教育とはまた違った大切な役目として、学校の“3K”を担う役割の大切さを伝えていくことも大事なかなと思う。むしろそちらの方にこそ、自分の足跡が残っているように感じているが、私だけなのだろうか…。

前 期 情 報

北海道中学校長会 事務局 高 橋 寿 輔

○はじめに

9月6日の北海道胆振東部地震により、道内各地で甚大な被害が発生し、多くの人命が失われました。

命を失われた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

○道教委との文教施策懇談会及び各課懇談会

今年度の道教委との文教施策懇談会及び各課懇談会が、8月9日に道庁別館及び本館会議室を会場として、道小学校長会、道中学校長会、道公立学校教頭会から80名が出席し開催されました。

前半の全体会では、道中・楯本会長と佐藤教育長からのご挨拶の後、道教委に対し、3つのテーマ【協議1】「学力・体力向上と教育環境の条件整備」【協議2】「生徒指導上の問題と解決のための方策」【協議3】「教頭を取り巻く現状と課題解決のための方策」のもと、地区及び教頭会から実情説明や追加質問を行い、協議を進めました。

後半の各課懇談会は3つの分科会に分かれ、道小・道中・道公教から提言と追加質問をし、それぞれに道教委の担当課から回答をいただきながら、意見を交流し懇談を深めました。今年度も「教育懇談会」が継続して開催され、佐藤教育長のご出席を頂く中で、道教委の幹部の方々や道小・道中の各地区理事の方々、道公教の役員が膝を交えた交流ができました。なお、詳細につきましては後日、「道小情報・道中だより号外」にてご報告します。

○地区別教育経営研究会

7月30日の上川地区、旭川地区を皮切りに、10月22日の札幌地区小学校長会まで順次開催される教育研究大会ですが、8月末から9月初旬にかけての

暴風雨、地震災害により、各地区で予定されていた研究大会も中止せざるを得ない状況となりました。今後、開催された地区の研究会の内容等を発信し、教育課題を共有して各地区の校長会の研修の充実に努めてまいりたいと考えます。

○第60回北海道中学校長会研究大会十勝・帯広大会

9月21日、22日、帯広市において北海道中学校長会研究大会十勝・帯広大会が全道より310余名の会員が参加して開催されました。開催2週間前に発生した地震被害と各地区への影響は大きく、内容を一部変更するとともに、開会式前に犠牲となられた皆様へ哀悼の意を表し参加者一同で黙とうを捧げた後、本大会が始まりました。

大会は、研究主題「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」に基づき、「恵み豊かな十勝から 次代を担うきらめく子らの 想いをつむぐ学校経営の充実」を大会スローガンに2日間にわたっての充実した研究大会となりました。1日目は山本全日中会長による教育情勢報告、全日中提案概要説明の後、午後から5つの分科会に分かれ、熱心な研究協議が行われました。夕刻より教育情報交換会にて各地区の震災における情報交換を行う中で、日高地区の松田理事より学校再開に向けたお話をしていただき、全道での支援と復旧に向け心をつづいていました。

2日目は、白間竜一郎文部科学省審議官による講話と元複合オリンピック選手の阿部雅司氏による記念講演を行いました。多くの感動と学びを頂ける大会となりました。主管された帯広市校長会、副主管の十勝小・中校長会の皆様には、細やかな運営を進めていただきました。心よりお礼申し上げます。

受賞おめでとうございます

北海道中学校長会の2名の校長先生が、平成30年度北海道教育功績者表彰を受賞されました。

☆蓮 本 裕 一 校長（函館市立深堀中学校）

☆宝 輪 博 継 校長（清水町立清水中学校）

道中事務局日誌

月 日 曜	業 務	時間	場 所	月 日 曜	業 務	時間	場 所
7. 13 金	第6回小中合同研修会（五役） 小中合同事務局研修会・合同学習会・懇談会（五役、幹事、専任職員）	9:00 11:00	ライフォート札幌 ライフォート札幌	8. 9 木	教育懇談会（五役、副会長、関係地区理事、幹事）	18:15	ライフォート札幌
17 火	学校保健審議会（新沼）	15:00	道 庁 別 館	10 金	全道女性教頭校長研究大会（楯本）	8:50	グランドパーク小樽
19 木	道佐藤教育長表敬訪問（五役） がん教育総合支援事業連絡協議会（越田）	9:00 15:00	道 庁 別 館	22 水	根室地区教育経営研究会（楯本、佐藤）	9:00	中道町・中道町公民館
20 金	北海道学校給食研究会広報編集委員会（山田）	14:00	第二水産ビル	23 木	教職員互助会特別委員会事業検討委員会（法本）	14:30	日本興亜札幌ビル
23 月	部活動関係者会議（楯本）	10:00	学校給食会	24 金	釧路・釧路市地区教育経営研究会（和田、山田）	13:00	釧路市教育センター
23 月	第7回小中合同研修会（五役）	15:00	道 庁 別 館	27 月	第5回北海道教育推進会議（楯本）	15:30	第2水産ビル
26 木	平成30年度 第1回 奨学生選考委員会（三浦（利））	13:30	道 小 事 務 所	28 火	全道いじめ問題対策連絡協議会（庄司）	13:00	北農健保会館
26 木	北海道学校給食研究協議会学校部会総会・研修会（山田）	10:30	札幌ガーデンパレス	29 水	第8回小中合同研修会（五役）	9:20	道小事務局
27 金	SNSを活用した相談体制の検討事業連絡協議会（越田）	9:30	ライフォート札幌	29 水	北海道近代美術協賛会（佐藤）	15:00	北海道近代美術館
30 月	第7期第4回北海道教育推進会議（楯本）	15:00	道 庁 別 館	30 木	北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり推進会議（田村）	10:00	道 庁
30 月	北海道環境教育等推進協議会（立花）	13:30	道 庁 本 館	31 金	時間外勤務等縮減推進会議（楯本）	15:00	道 庁 別 館
31 火	上川地区教育経営研究会（三浦（利））	13:30	旭川市・ときわ市民ホール	9. 5 木	第5回事務局研修会（五役、筆頭副会長、幹事、専任職員）	10:30	ばらと北1ビル
31 火	旭川市・中学校教育経営研究会（新沼、佐藤）	13:30	旭川市・神楽公民館	9. 5 木	第1回北海道産業教育審議会（木村）	13:30	道 庁 別 館
8. 1 水	宗谷地区教育経営研究会（三浦（崇））	9:00	稚内市・総合文化センター	6 木	渡島・函館地区教育経営研究会（立花） ※胆振東部地震で中止	13:00	函館競輪場テニスクラブ
3 金	北海道高等学校奨学会（木村）	13:30	札幌コンベンションセンター	7 金	第6回教職員互助会特別委員会事業検討委員会（法本） ※胆振東部地震で中止	14:30	日本興亜札幌ビル
5 日	全国公立学校教頭会札幌大会（楯本）	13:00	札幌コンベンションセンター	13 木	平成30年度少年の主張全道大会審査（大村） ※胆振東部地震で中止	10:00	かでる2・7
5 日	北海道教員育成協議会（新沼）	10:00	道 2 水 産 ビ ル	20 木	胆振地区教育経営研究会（木村） ※胆振東部地震で中止	13:00	登別市民会館
6 月	北海道子ども生活習慣づくり実行委員会（大村）	13:30	道 庁 別 館	21 金	第4回副会長会（五役、副会長、専任職員）	13:30	とかちプラザ
7 火	北海道150年事業 記念式典（高橋、和田）	8:30	北海きたえーる	21 金	第4回理事研修会（五役、副会長、幹事、地区理事、専任職員）	14:30	とかちプラザ
8 水	日高地区教育経営研究会（和田、越田）	9:00	新ひだか町・公民館	22 土	第60回北海道中学校長会研究大会 十勝・帯広大会 第2日目	9:15	帯広市民文化ホール
8 水	小樽地区教育経営研究会（法本、三浦（利））	13:00	小樽市・ジブラルタ生命ビル	25 火	「北海道教育の日」第2回幹事会（和田）	9:00	ライフォート札幌
8 水	後志地区教育経営研究会（立花）	13:00	倶利伽羅・ホテルシーナ会館	26 水	留萌地区教育経営研究会（田村）	10:00	羽幌町・羽幌町役場
9 木	道中合同研修会（楯本、高橋、和田、葛西、木村、越田、佐川、十勝・帯広実行委員会、提言、司会、運営）	16:00	ANAクラウンプラザホテル	28 金	オホーツク地区教育経営研究会（笹川）	13:00	北見市・堀野町公民館
9 木	道東地区校長会代表連絡会（楯本）	15:00～	ANAクラウンプラザホテル	28 金	樽山地区教育経営研究会（法本、大村）	9:15	樽山地区教育センター
9 木	第1回学校保健総合支援事業連絡協議会（庄司）	9:30	ライフォート札幌	10. 1 月	日本教育公務員弘済会教育研究論文審査会（楯本、越田）	14:00	ライフォート札幌
9 木	第3回副会長会（五役、副会長、専任職員）	9:30	ライフォート札幌	2 火	石狩地区教育経営研究会（新沼、三浦（崇）、田村）	13:30	北見市・中道町公民館
9 木	第4回理事研修会（五役、副会長、地区理事、幹事、専任職員）	10:30	ライフォート札幌	3 水	第70回全国連合小学校長会研究大会北海道大会「交歓会」（楯本）	19:00	ホテル法善クラウンタワー
9 木	文教施策懇談会（五役、副会長、関係地区理事、幹事）	13:30	道 庁 別 館	4 木	第70回全国連合小学校長会研究大会北海道大会（楯本）	9:00	函館アリーナ
9 木	各課懇談会（五役、副会長、関係地区理事、幹事）	14:50	道 庁 本 館	6 土	北海道PTA連合会研究大会旭川大会第1日・懇談交流会・情報交換会（楯本、佐藤）	10:50	アートホテル旭川
9 木				7 日	北海道PTA連合会研究大会旭川大会第2日目（楯本、佐藤）	8:45	旭川市民文化会館

発行者 会長 楯本 直樹

事務局 札幌市中央区北1条西3丁目

北海道中学校長会

敷島プラザビル4F

編集者 道 中 情 報 部

TEL011-251-1344 FAX011-251-1302

http://www.dochu-kochokai.jp

本誌の発行にあたっては、作成方法等の見直しにより経費の削減に努めています。